

温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究 ～フレイル領域～

松元秀次 茨城県立医療大学・保健医療学部医科学センター・教授
石本立 北海道大学病院・リハビリテーション科
宮良広大 九州看護福祉大学・看護福祉学部リハビリテーション学科

研究要旨

フレイルに対する温泉療法の有効性をシステマティックレビューで検証し、運動療法を組み合わせたエビデンスに基づく標準温泉療法プログラムを構築する。電子化した「温泉療養指示書」を連動させた多施設前向き観察研究により QOL 変化を評価し、DPC を基盤とする診療情報データベース解析から薬物療法のみでは管理不良な患者を抽出して温泉療法の適応患者像を定量的に規定する。得られた知見から標準プログラム、療法医向け指導書、一般向け啓発資料を作成し、温泉療法の適正利用と地域包括ケアにおける健康増進・医療費抑制への貢献を目指す。

A. 研究目的

温泉療法による健康増進効果について、フレイルを包括的に評価し、最新のシステマティックレビューをまずは行う。その次に前向き臨床研究・ビッグデータ解析を統合して「日本発のエビデンス」を体系化する。

B. 研究方法

フレイルに対する温泉療法の有効性をシステマティックレビューで検証し、運動療法も組み合わせたエビデンスに基づく標準的温泉療法プログラムを開発する（フレイル対象）。温泉療法に関する論文の包括的評価と「温泉療養指示書」電子化を行い、多施設前向き観察研究により QOL のアウトカムを評価する。得られた知見から標準プログラム、療法医向け指導書、一般向け啓発資料を作成し、適切な温泉療法の普及と地域包括ケアにおける健康増進・医療費抑制への貢献を目指す。（倫理面への配慮）

研究に対し書面による同意取得後に温泉療法指示書電子化・匿名化データ収集システム構築し、「温泉療法と生活の質に関する検討ー前向き観察研究ー（フレイル対象）」は臨床倫理審査書を提出準備中である

C. 研究結果

1. システマティックレビューの成果

研究代表者である山崎聡氏（聖マリア病院血液内科）の掲げる6テーマのうちのひとつ

フレイルについて解析を行った。

Database、MEDLINE、Embase、CENTRAL、WoSCC、Ichushi-Webから該当する論文を抽出し、58件がスクリーニングされた。そのうち研究目的に該当し、研修デザイン等を勘案したうえで29件が採用された。

k おも29件を吟味、整理して、国際誌へ投稿するレビュー論文を作成中である。

2. 前向き観察研究（温泉療養指示書）

研究代表者である山崎聡氏（聖マリア病院血液内科）が進めている「温泉療養指示書」電子化コホートに準じてフレイル対象の研究する準備中である。

D. 考察

本研究班は、フレイルに対する温泉療法の有効性を確かめるべく、まずはシステマティックレビューを行い、その後に前向き観察研究（フレイル対象）を検討していく。6領域脳うちのフレイルに対するシステマティックレビューにより、温泉および関連する温熱負荷、水治療がフレイル・身体機能・身体活動などに一定の有益な影響を与えうる可能性が示された。

今後のフレイル対象の前向き試験で、エビデンスのさらなる構築とシステマティックレビューの裏付けを行っていきたい。日本発のエビデンスに基づく温泉療法の国際発信と保険適用の議論につなげていくことが、今後の重要な課題である。

E. 結論

本研究は、フレイルに対する温泉療法の効果をシステマティックレビューを行い科学的に検証し、そのエビデンスに基づく標準プログラムを構築することで、地域医療・地域包括ケアに資する新たな介入モデルを提示することを目的としている。

さらに、フレイル対象の前向き多施設研究を推し進めて、温泉療法の多面的な治療効果の可能性を示し、国民の健康増進と医療費・介護費の適正化に貢献することを目指す。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし